

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 後志部古墳群

上三川町には多くの古墳があり、特に古墳時代の後期以降、たくさんの古墳が造られるようになります。これらの古墳は、大きな古墳を中心に小さな古墳がたくさん造られ、まさに群れているような状況から、古墳群という名称で呼びますが、古墳時代後期のものは特に群集墳と呼びます。

後志部古墳群は、上神主の田川西岸の台地上に位置し、大きく見ると上神主から下神主にかけての田川に面した台地上に分布する、神主古墳群の一部と考えられます。前方後円墳である後志部古墳を中心に、現在無くなってしまうものを含め8つ以上の円墳で成り立っている群集墳になります。この中心に位置する後志部古墳は、現在緑に覆われていますが、全長42m、後円部は径約25・2m、高さ4.2m、前方部は幅24m、

長さ18m・高さ3.6mであり、当時の美しい姿を残している古墳です。

この古墳は、平成6年度に宇都宮大学考古学研究会によって発掘調査が行われています。発掘調査では、筒のような形をした埴輪（円筒埴輪）、人をかたどった埴輪、弓矢を引く際に手首につける鞆を模した埴輪、矢を納めるための細長い容器である鞆をまねた埴輪、また盾や太刀・家をまねた可能性が高い埴輪の破片が出土するなど、この古墳がつくられた当時、葬られた人間の霊を慰めるために、多くの埴輪が墳丘の上に立ち並んでいたことがわかりました。このような立派な古墳を作ることができたという事は、埋葬された人物が非常に大きな政治的な力があったからにはかありませぬ。そして、その墓が作られたこの地域は、埋葬された人物の一族にとって、

特別な地域であったことでしょう。

この古墳群が存在する神主地区の台地上には、古墳時代が終焉を迎えるとともに、初期の役所跡と考えられる西下谷田遺跡、そして河内郡の役所跡と考えられる上神主・茂原官衙遺跡が作られるなど、地域の政治的中心地となっていたことが近年の発掘調査からわかっています。このような役所を作り、当時の河内郡を率いた人物の祖先こそ、後志部古墳群に眠る人々であったのかもしれない。



現在は緑に覆われている後志部古墳群

室 町 時 代																	時代		
1994	1968	663	645	628	588	585	571		6世紀後半	562	538	527	507		478	475		5世紀中葉	西暦
平成6	昭和43																		元号
後志部古墳の発掘調査が実施される。	後志部古墳群、町指定史跡となる。	白村江の戦い。	大化の改新。	推古天皇死去。山背大兄王の乱。	飛鳥の地に法興寺（飛鳥寺）が建立される。	用明天皇仏教興隆をはかる。	欽明天皇が亡くなる。	吾妻岩屋古墳をはじめとした下野型古墳が出現する。	このころ後志部古墳が作られる。	任那において日本府が滅びる。	百濟より仏教が伝来する。	筑紫君磐井の乱が勃発する。	継体天皇が即位。	このころ摩利支天塚古墳・琵琶塚古墳が築かれる。	倭王武（雄略天皇）、南宋に使者を送る。	百濟、高句麗に漢城を占領される。	このころ、大山古墳（仁徳天皇陵）が造られる。		できごと